

令和5年度 第55回 照明技術賞

映画部門

優秀照明賞 「ゴジラ-1.0」

担当 上田 なりゆき

製作 東宝

時代背景に合ったライティングで物語に入りやすく夕陽のキーライトが寂しさ貧しさをうまく表現している。タングステン光の使い方が上手く色温度のバランスが秀逸そしてストーリーを邪魔しない効果的な光の操り方も素晴らしい依って茲に優秀照明賞を贈ります。

審査員特別賞 「シン・仮面ライダー」

担当 吉角 莊介 (APEX 支部)

製作 「シン・仮面ライダー」製作委員会

隠れ家での木漏れ日のライティングには秘密基地感があり、これから始まる物語に入りやすかった。また、ナイターでは人物と背景とが上手く馴染んでいて親やすいそしてそれぞれのオーグによって世界観やライティングを変え正義と悪とを光の違いで表した技術は素晴らしい依って茲に審査員特別賞を贈ります。

優秀新人賞 「岸辺露伴 ルーヴルへ行く」

担当 鳥内 宏二

製作 「岸辺露伴 ルーヴルへ行く」製作委員会

冒頭の古物商の店内のタングステンライトの色味とバランスが絶妙でした。ロケセットのハード目なハイライトと柔らかい暗部の光も遠近感を誇張した構図によく合っていました。回想シーンの日本家屋はハイキーなライティングでのコントラスト調整が良かったです。後半の地下の廊下から暗くて広い地下室への展開が対比され、ローキーの長いシーンでは懐中電灯と炎の照り返し等を駆使し、工夫した飽きさせないライティングでした。

新人奨励賞 「唄う六人の女」

担当 友田 直孝

製作 「唄う六人の女」製作委員会

現実世界の普通でリアルなライティングから異次元空間のファンタジーな世界観への展開、現実離れた力強い光によるライティングが際立っている。作品内容的に光を自由に扱える環境での、伸び伸びとした創造力が発揮された異空間を形成している。個性

豊かな女性たちが其々美しく撮られている。

テレビドラマ部門

優秀照明賞 「探偵ロマンス」第一話

担当 根来 伴承

製作 日本放送協会

室内シーンやオープンロケなどでの陽ざしと日陰絶妙なバランス設計が良い。極端なカラーライティングでは無いが様々な色彩を演出したライティング、柔らかな光を巧みにコントロールした映像など、まさにタイトル内にもある「ロマンス」を意識した、丁寧で素敵なライティングであった。

審査員特別賞 「風間公親-教場0-」第三話

担当 富沢 宴令

製作 フジテレビジョン

各シチュエーション毎に変化させる、コントラストや色彩設計が巧みであった。主役は常にメガネをかけているがライトの映り込みを考慮しながら、その都度の表情の見せ方が上手かった。

優秀新人賞 「トリリオンゲーム」第六話

担当 山下 昌也

製作 TBS スパーク

全般において卒がなく新人とは思えないほど光の操り方がうまい。室内から見る外景は明るめだが、それに対するフェイストーンは丁度よく自然と感情移入が出来た。株主総会のシーンにおいては、ステージ上と客席の色温度の変化やスクリーンからの反射光を思わせるシアン光の色合いによって、形勢逆転した演者の表情を表すなどライティング技術は素晴らしい。依って優秀新人賞とした。

新人奨励賞 「やさしい猫」第一話

担当 中村 令奈

製作 日本放送協会

タイトルにあるように全体的にやさしい光で仕上がっていて落ち着いて観る事が出来た。各所においてタングステン光を感じるが、ナイターシーンに使っているブルー系、アンバーとも濃すぎず良いバランスになっていて心地よく物語を観る事が出来た。また主人公の肌色の違いにも気遣ったライティングが良かった。

配信部門

新人賞 『サンクチュアリー-聖域-』 第七話

担当 田中 洵

制作 スロータイト

カメラマンの意向をよく汲んだライティングは見事だ。俳優陣の邪魔にならない様にアベイラブルなライティングと、舞台を箱に見立てて外からライトを当てていく箱的なライティングに加えて、アップになるとさり気なく彩（あや：今回の場合はその人物の心象を表現している）を付けている。なかなかの手練れ。素晴らしい。この若きライトマンの次回作を早く観てみたいと思わずにはいられない。文句なしの新人賞。

CM 部門

優秀照明賞 カロリーメイト「光も影も」篇

担当 崎本 拓哉

制作 AOI Pro.

少女の自室でのスタンドの灯りの使い方、ナイトシーンでの夜の道の処理など、短い秒数の中で、きちんと照明設計され、光と影のコントラストを上手に表現されていた。

審査員特別賞 月桂冠「WORLD SAKE」篇

担当 笠井 拓児

制作 アットアームズ

シズル感が実に素晴らしい。ハイライトとのバランスも良く VP にも見える。綺麗で丁寧な仕上がりは、好感が持てる。

MV 部門

優秀照明賞 米津玄師「月を見ていた」

担当 岩淵 隆斗

制作 テトラポットフィルム

いつもの米津玄師 MV の世界観を踏襲しているが、方向性を持った柔らかな光質で、合成であろう合戦場シーンの天空光や森の中、どれも世界観が統一されていて技術の高さが表れていた。特に部屋の中のセットは天窓からの光の影の使い方が秀逸だった。

新人賞 藤川千愛「愛の歌」

担当 岩木 一平

制作 addgroove

倉庫のなか、コンテンポラリーダンスを交えながらの一曲長回し。計算されたライトの采配と、曲に合わせたタイミングと色調、何周も動き回るカメラとの調和は大変苦労だったであろう。その中でも無駄の

ない逆光とトップ光の使い分けは新人賞に値します。

総合部門

優秀照明賞 MITSUBISHI DELICA MINI 「アドベンチャースタイル」編

担当 西野 哲雄

制作 ANRAKU

キャンプ場までの走りのカットとキャンプ場での佇まいのカットで車の魅力を引き出している作品です。森の中のカットではホイールやバンパーなど各パーツに当てているライトが森の中の木漏れ日と上手く融合して自然な感じに仕上がっていました。翌朝の出発のシーンで硬め光を人物にあてて硬派なイメージを作り出しデリカ・ミニの購入者層に届く作品に仕上がっていました。

伊藤幸夫賞

近松 光

照明技師の意図するライティングを具体化するためスキルアップに力を注ぎ 照明部以外のスタッフにも気を遣い現場の雰囲気良くしている。
そして協会活動では出版部として協力し貢献している。
依って茲に伊藤幸夫賞を贈ります。

第55回「照明まつり」授賞式&機材展

照明まつり実行委員長 西野 哲雄

今回も昨年に続き調布市グリーンホール 小ホールにて「照明まつり」機材展示、授賞式そして懇親パーティを開催することができました。機材展示会社、副賞提供会社、機材・消耗品及びスタッフ協力会社、そして維持会員、関連団体のご出席して下さった皆様には感謝いたします。また「映画のまち調布 シネマフェスティバル」を開催している調布市には共催のご承諾をいただきありがとうございます。

機材展では機材・消耗品会社13社15区画と多くの企業に参加していただき、新機材や新商品の出展もあり来場者の方々は各ブースに大変興味を持ち大盛況でした。

授賞式においては受賞者に直接メダルを掛け、盾も渡せ、喜びの声も聞くことができました。

受賞者の皆様、本当におめでとうございました。